

異業種交流会 報告

2017年11月22日

加藤 亨（高23回、日本アジアグループ、袋井中）
鈴木秀明（高23回、人事コンサルタント、磐田第一中）
山内英典（高29回、明日美、磐田第一中）
津川 悟（高35回、日本経済新聞社、城山中）
佐藤 稔（高40回、関東ティーイーケイ、豊田中）



初めての異業種交流会が開かれ、急な呼びかけにもかかわらず5人が参加した。加藤支部長が同期との情報交換をきっかけに浜松市で小水力発電所のプロジェクトを提案した経験から異業種交流の重要性を指摘した。鈴木氏が同窓生のいる凸版印刷やソニー半導体子会社などと仕事をした経験を披露。山内氏がヤマハ発動機や大正製薬の同期生との交流などを語った。佐藤氏は国内で工場建設が活発になる一方、東日本大震災を受けて静岡県から工場が県外に移転する動きを説明した。

その後、それぞれの専門知識を生かして、成果主義に代わる人事制度、企業内のシステム開発の新しい潮流、土木現場での3D（3次元）情報の可能性、専門学校就職状況など、多様なテーマで活発な意見交換が続いた

参加者は異業種の同窓生との議論は、直接仕事に結びつかなくても、知識や教養を深めるうえでも有意義との認識で一致。学生にとっても、さまざまな分野で活躍する同窓生の存在は励みになるだろうとの意見も出た。

今後、総会や新卒者歓迎会に続く関東支部の主要事業として年2～3回、開きたいという加藤支部長の提案に全員が賛同。意見交換しやすいよう10人程度の規模で、発表者によるプレゼンテーションなど方法を工夫して支部会員の交流を深める場としていくことになった。関東支部の会報でも紹介する予定。

（文責・津川）